

主よ、私たちは、希望を失ひません。私たちが目を上げて、
主が再び来られる日を持ち望みます。
その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、
民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御
座の前と子羊の前に立ち、白衣を身にまとい、手になつて
椰子の枝を持っていた。彼らは大声で叫んだ。「救いは、御
その黙示録7章10節）
・この希望ゆえに、私たちはこの「おわり」の地で、立場
を變え、教派を脱ぎ、地域を脱ぎ、文化を脱して「はじめ」
・「見よ、わたしたちは新しいことを行う。今、それが芽生えて
いる。あなたたちは、それを知らないから、必ず、それが野生
荒野に道を、荒れ地に川を設ける。」（イサヤ書43章19節）
・「主よ、期待をもつて、主イエス・キリストの御名を通して祈
ります。アーメン。」

6. 「그녀의 사랑」의 주인공은 누구인가?

「そのために、まず国外の日本基督教と国内の外国語・多言語教会、あらゆる働きに従事する宣教師たちとの連携と協力を進めます。」「私たちが、外国から日本に来てくださった兄弟姉妹を感謝し、歓迎します。尊厳をもつて違いを学び合ひながら、多文化に開かれた教会として、共に世界に広がる宣教を担っていきます。」「私たちの働きは、あなたの宣教の一部です。あなたが始められて完成させてくださることを確信しつつ、喜ばせたくて労します。私たちにあなたの拠点を与えてください。」

・神の創造された麗しい世界が、罪と墮落の影響を受けてう
 めています。私たちの身りの罪を赦してください。地球温
 暖化や環境破壊に臨正のため、私たちの救世主が調和して
 仕える管理者として用ひてください。この第7回日本福音
 義を契機として、全教会的に環境保全の取り組みが具体化す
 るように道を開いてください。

「下さる、和解の主である神さま。ウラナチをはじめ各地で戦争が起つていきます。主よ、平和をもたらしてください。私たち自身の中にある、争いを生み出す欲望を自覚させ、平和をつくる者とならせてください。」

5. 文化を越えた宣教師協力を「はじめる」ことができるように

1. 地域を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

1. 「おわり」を見つめることができるように

・やがて栄光の主として来られ、天地を新たにしてください。
世界の完成者となる神さま。

・私たちが聖書信仰に立つ日本の教会が、京都会議から神戸会議まで6回の伝道会議を重ねて宣教協力を深め、国内外の福音宣教の働きに参与させていだいてきたことを感謝します。

私たちは、宣教の主ご自身がみわざを進ませてくださいことを信じ、主への期待をもってこの祈りを御前にさげます。

・今、私たちは「おわり」の時に立っています。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、平和が脅かされています。大きな地震があり、深刻な飢饉や未知の疫病が起こっています。

・環境破壊が急速に進み、災害が甚大化しています。世界の各地で起きている迫害や紛争も深刻です。あらゆる分断が世界を覆い、格差の拡大に、貧困に、倫理の混迷に世界中が痛み、うめいています。

・教会が直面している困難も多面的かつ深刻です。多くの教会で高齢化が進み、献身者の減少が顕著です。兼牧や無牧の教会が増え、教会の合併や閉鎖、奉仕者の燃え尽きが止みません。

・新型コロナウイルス感染症のもたらした交わりの課題や経済的な困難もあります。さらには、キリスト教から生まれた異端・カルトにより家庭が崩壊し、心も体も傷ついている人々が多くいます。

・主よ、私たちが遭わされているこの時代の現実から目を背けることなく、聖霊なる神に探られ、教えられて、悔い改めと主への信頼に生きることができるようにも助けてください。「おわり」の日の光を見つめ、希望をもってあなたにお伝えします。私たちがあわれみでください。

3. 教派を越えた宣教協力を「はじめ」ことができるように

2. 立場を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

● 私たちをご自身のかたちとして造られた創造主なる神さま。
● この世に生を受けたすべての人が、神によって与えられたいのちのゆえに、尊厳をもって福音に生きることができるようにしてください。

● 家庭や学校で、声を上げることができないまま苦しむ子どもたちに気づき、手を差し伸べることができるようになる。
● 若い親が主と出会い、神に由来する自分の存在意義をはっきりと知ることにおいて健全に成長し、学ぶこと、働くこと、そして遊ぶことを通しても、主を賛美する者となりますように。キリスト者の豊かな交わりに生かされ、聖書が語る希望に人生の土台を据え、生涯を通して神との確かな関係に生きることができるようになる。

● 独身として歩む人々と結婚に導かれる人々が、それぞれに与えられる祝福を聖書から学び、賜物を生かして、主にあける喜びのうちに歩めますように。神の愛のうちに家庭が築かれ、家族一人一人が、暴力や虐待などあらゆる危険から守られ、祝福を味わうことができるようになる。

● 年齢を重ねた人々が、永遠のいのちの希望をもてさまざまな変化を受け止め、「外なる人」は衰えても「内なる人」は日々新たにされることを覚えるがため歩めますように。

● 性的少数者、外国人、路上生活者、重い病心や体の「障害」1を持った方など、偏見や差別、無理解に苦しんでいる方々が教会にもいます。そのゆめきや葛藤に耳を傾け、互いの弱さを担い合うことで、私たちがキリストの力がおおう教会としてください。

● 信徒と教師が、互いの役割の違いを理解しつつ協力し、それぞれの個性を尊重して支え合い、共に主の教会を建て上げることができるようになる。そして、職場、地域、家庭など、あらゆる領域で信仰をもって生きる信仰者一人一人が、神の国のために用いられることを確信させてください。

● 私たちは立場を越えて、教会の交わりに生きる喜びを知り、互いを尊敬し合いながら、それぞれの立場に届く形で福音を分かち合っている。主よ、私たちのために宣教のための知恵と尽きることのない情熱をお与えください。

・主よ、私たちは数派・教団・教会・働き、御きの壁を越えて、仕え合ひ、学び合ひ、一つのからだである教会として協力して宣教に取り組めます。私たちに愛を加え、謙遜な心を与えてください。

「ローザンヌ運動を通して促されてきたように、私たちは「こぼさず」と「わき」を通してイエス・キリストをあかしし、福音をまねく肩けたいと願っています。」

・東日本震災、さらに各地を襲った災害による被災地での教会の働きが続けられてきました。そこにある痛みを担うと、地に置かれた教会の使命を、そして教派を越えて協力することの必要性を私たちは強く教えることができました。

・私たちの必要とする福音の包摂的な理解がさらに深められ、協力して社会的責任を果たせるように。

・キリストの多種多様な働きが教会のわざとしてますます実し、あらゆる分野において神の国が実現、福音が前進します。

・教会の歴史を学びつゝ、愛するべきことと愛してはいけな
いものを見極めることができるよう努力してください。かつて
日本に傳へられたほとんどの教会は、教派を越えた協力のなか
ら、戦争に加盟し、天皇を神とする偶像崇拜を行い、アジア
諸国においても神社参拝を要する国家に与するといふ罪を
犯しました。私たちはその罪を悔ひ改めます。

・この時代の政治状況に注視し、為政者のためにとりなしつ
つ、イエス・キリストの十字架の赦しと、復活の力により、
主のきよき人生を生きるとしてくださいます。私たちの隠れた罪を
示して、愛を授けようとしたに及びける偶像崇拜の疑惑に打ち
勝つために。

3. 教派を越えた宣教協力を「はじめ」ことができるように

JCE7 東海宣言

「おわり」から「はじめる」
私たちの祈り

2023年9月

<https://jcenet.org/jce7/>

教会などで、複数の皆さんで祈る時には、JCE7で用いたこちらの元データでどうぞ：



英語公式訳と15ヶ国語訳資料もあります：



このデータをA3にプリントアウトして、
赤線:切り目／点線:山折り／実線:谷折りにすると、
プリンタの余白によっては少しズレが生じますが、
A5サイズ8面の冊子にできます。(A4→A6)